

事業概要書

事業名	地域まるごとで孤育てを予防する連携システム事業
団体名	まつどでつながるプロジェクト運営協議会
事業担当課	子ども政策課

事業概要
核家族、経済的貧困、一人親、子・親の障がいを抱えた世帯など、子育てにおいて困難を抱えながら地域で孤立し、支援につながりづらい家庭が、官民の連携により必要なサポートにつながる可以实现するシステムを実現する。

取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	<p>核家族化、経済的貧困、一人親世帯の増加、子・親の障がいを抱えた世帯、外国人家庭など、子育てにおいて困難を抱えながら地域で孤立し、支援を必要とする家庭が増えている。※松戸市における虐待の相談対応件数は約 10 年で約 4 倍に増加（2020 年度…年間 1317 件、2011 年度…年間 310 件）</p> <p>その中で公的な支援だけでは、多様化する家庭に対してより良く子育てができる環境や暮らしを支えることは難しく、民間として地域の力を活かすことができる仕組みづくりが必要であると考え。</p>
---------------------	---

事業の目的	<p>課題に示した通り、子育てや子どもの環境において難しさを抱えながらも支援につながらない家庭が増えている中で、全国的にも増加している産後うつや虐待、愛着障害や子ども若者のドロップアウトなど、子育て～子どもの成長を取り巻く負の連鎖の予防・緩和・解決に向けて、行政と民間団体、企業、地域住民が協力し合うことのできる仕組みづくりを目的とする。</p> <p>本事業提案においてはその中で特に、官民それぞれの支援者間の連携を促進するための地域円卓会議の推進、および日常生活の中で子育てに寄り添うことができる市民サポーター育成の普及を目指す。</p> <p>●地域円卓会議の目的…主として対象年齢ごとに関わる行政・民間それぞれの支援者が集まり、現状の取りこぼされている課題について共有し、対話する中で相互の連携に向けた関係づくり、および解決に向けて検討する。</p> <p>●市民サポーター育成の目的…資格を伴う専門職ではなく、一般市民の中で日常的に子育てを見守り、あたたかい声掛けができるサポーターを増やすことで、地域の網の目を細かくし、孤立を予防する。</p>
-------	--

事業内容	<p>① 子育て当事者の声を真ん中にした地域円卓会議の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政・福祉専門職・子育て支援 NPO・子ども食堂など、子育てに関わる多くの機関や団体が集まり、子ども・子育て当事者が置き去りにされない議論、本質的な子育てしやすさを目指す組織間連携を生み出す。 ・個人個人の相互理解を育むことを基盤に、それぞれが持っているピース（資源）を持ち寄り、支援とそれを必要としている人が適切につながる体制を生み出していく。具体的には参加者の活動内容や情報を共有するためのツール（メーリングリスト、WEB サイト、冊子など）の運用も進める。 ・3 年目では参加者へのヒアリングやアンケートを通じて、これまで実施してきた成果を検証し、今後の継続に向けた論点を整理する。特に 2 年目から行っている検討ワークショップで話し合った内容について、その後どのような変化が生まれたかを検証する。
------	---

- 円卓会議について、参加者は20～30名程度で年間3回を予定
- 取り上げるテーマの例（乳幼児期、児童期、青年期）
- 円卓会議で挙げた具体的なテーマについて、さらに踏み込んで検討する場づくり（検討ワークショップ）を円卓会議後に各3回行う。

②孤育てを予防する「子育て市民サポーター養成講座」の普及

・地域との関わりの薄い子育て世帯が、妊娠時期より何気ない日常の中でつながりを持ち、必要な支援や制度にたどり着くことができるよう、声掛けやお手伝いできるボランティア養成と活躍できる場とのマッチングを目指す。

・普段の生活の中で子育て世帯に対してあたたかく支えられる地域人材を増やす養成講座を中心として、すでに本市で取り組まれている子育て支援に関わる事業や地域活動におけるボランティアの紹介などを行っていく。

- 2年間の実施を踏まえて、本講座では地域で何か子ども・子育てを支えていきたいという気持ちを持っている市民が一步踏み出すきっかけを作ることを主なねらいとし、広く周知・普及することに取り組む。

- 気軽に参加できる講演会を1回、またより深く学びたいという方を対象とした連続講座を3回実施する。

①②に共通する事項

- 実施により得られた成果を地域に共有することを目的として、外部のレポーターによる記録の可視化（グラレコ等）に取り組む。

年間予定	地域円卓会議	市民サポーター養成講座
4月	年間予定の検討、次年度に向けた成果の検証	
6～7月	★第1回開催～ふりかえり	カリキュラムの検討
8月～9月	検討ワークショップ	講演会企画の検討
10月	★第2回開催～ふりかえり	→周知活動
11月～12月	検討ワークショップ	講演会の実施～連続講座
2月	★第3回開催～ふりかえり	実施のふりかえり
3月	検討ワークショップ	

協働の必要性

・民間の子ども食堂をはじめとして地域で出会うことができた困難を抱える家庭に対して、適切な行政の支援が必要な場合があるが、どこにどうつなげれば良いのか不明であったり、情報共有の方法がないといった課題がある。

・地域で取り組まれているインフォーマルな活動の担い手をさらに増やしていく、また一部の人に限られてしまわないよう、新たな人材が交わる仕組みづくりが必要である。そのために公的な情報発信を活用する必要がある。

・子どもや子育てに関わるどの部署、組織においても課題が多様化・複雑化している。対応するケースワーカーも多くの個別事例を抱えており、日常的な困りごとへの支援は難しいため、民間との連携は必要であるが、お互いを知る場や情報共有する機会が少ない。

・街全体で子育てを支えていく機運を高めていくためには市民の参加が必要である。特にこれから地域で増える退職シニアの参画を促していきたい。

事業の目標

○地域円卓会議の開催…年3回の実施（延べ80名の参加者を目標とする）。また検討ワークショップを最低3回実施し、実践につながる事例を目指す。

○市民サポーター講演会および養成講座の実施…子育てを街で支えることを幅広く周知するための講演会（年1回、50名の集客を目標とする）および、連続講座の受講生20名を目指す。

事業の予算概要

【労力換算（限度額算入）】

（単位：円）

区分	科 目	予算額	積算内訳
団体	労力換算額 (A)	¥ 270,600	※別紙 労力換算計算書 参照

【収 入】

区分	科 目	予算額	積算内訳
団体	団体拠出金	¥ 5,000	団体の会計より拠出
	参加費	¥ 20,000	養成講座参加費（1000円×20名）
	自己資金の合計額 (B)	¥ 25,000	
市	協働事業負担金 (C)	¥ 225,000	
合計額 (D) = (B + C)		¥ 250,000	

【支 出】

区分	科 目	予算額	積算内訳
負担金の 交付対象 経費	報償費	¥ 170,000	①地域円卓会議レポート 謝礼（円卓会議・講演 会・養成講座） ①5,000円×5回=25,000円 ②外部講師謝礼（講演 会） ②100,000円 ③外部講師謝礼（連続講 座） ③15,000円×3回=45,000円
	消耗品費	¥ 11,000	プリンター用インク 2,500円×2セット ワークショップ用付箋な ど 300円×20個
	印刷製本費	¥ 39,000	資料印刷費（円卓会議） 5円×20ページ×30セット×3回=9,000 チラシ印刷（養成講座） 円 テキスト印刷（養成講 座） 5円×3,000枚=15,000円 150円×100部=15,000円
	委託料	¥ 30,000	デザイン費（講演会チラ シ） 30,000円×1回
	対象経費の合計 (E)	¥ 250,000	
（そ の 他 経 費）			
	その他経費の合計額 (F)	¥ 0	
合計額 (G) = (E + F)		¥ 250,000	

【チェック項目】

- 1 協働事業負担金 (C) が、対象となる経費 (E) 欄の90%以内であること。
- 2 協働事業負担金 (C) が、自己資金 (B) 欄に労力換算額 (A) 欄を加えた額を超えないこと。
- 3 協働事業負担金については、50万円を上限とする。

労力換算計算書

(単位：円)

項 目		換算額	積算内訳
労 力 換 算 額	活動計画		人数×時間回数×984円
	円卓会議打合せ	11,808 円	2 人 × 2 h × 3 回 × 984 円
	円卓会議準備	23,616 円	2 人 × 4 h × 3 回 × 984 円
	円卓会議本番	35,424 円	3 人 × 4 h × 3 回 × 984 円
	検討ワークショップ準備	11,808 円	2 人 × 2 h × 3 回 × 984 円
	検討ワークショップ実施	17,712 円	3 人 × 2 h × 3 回 × 984 円
	円卓会議ふりかえり	26,568 円	3 人 × 3 h × 3 回 × 984 円
	養成講座打合せ	15,744 円	2 人 × 2 h × 4 回 × 984 円
	養成講座準備	39,360 円	2 人 × 4 h × 5 回 × 984 円
	養成講座本番	59,040 円	3 人 × 4 h × 5 回 × 984 円
	養成講座ふりかえり	29,520 円	2 人 × 3 h × 5 回 × 984 円
			人 × h × 回 × 984 円
			人 × h × 回 × 984 円
			人 × h × 回 × 984 円
			人 × h × 回 × 984 円
		人 × h × 回 × 984 円	
		人 × h × 回 × 984 円	
		人 × h × 回 × 984 円	
		人 × h × 回 × 984 円	
合 計 (A)	270,600 円		